



超初心者向けAI活用セミナー概要

セミナー開始と概要 (00:01:20)

セミナーの目的と対象者 (00:01:22) セミナーは超初心者向けに設計されており、AIの基礎知識を提供することを目的としている。
AI活用の基本を学びたい人や、チャットGPTを初めて使う人を対象としている。
安全にAIを活用するための注意点や基本操作を学ぶ。

セミナーの形式と進行方法 (00:01:50) セミナーはオンライン配信形式で行われ、アーカイブも利用可能。
1時間程度のセッションで、基礎から応用までをカバー。
質疑応答や演説を交えながら進行。

講師の自己紹介 (00:02:51) 講師の自己紹介、パソコンとインターネットの基本、チャットGPTのモデルの違いを解説。
最終的なゴールは、チャットGPTを使って簡単な質問ができるようになること。
ハルシネーション（誤情報）のリスクを理解し、安全に利用する方法を学ぶ。

講師の自己紹介 (00:03:27)

講師の背景と専門分野 (00:03:34) 講師は有限会社の代表であり、AI活用やエンジニアリングの経験を持つ。
実家が葬儀業を営んでおり、死に方改革やデジタル仮壇の開発に携わる。
ボストン大学工学部出身で、AI関連の営業顧問としても活動。

過去のプロジェクトと経験 (00:04:46) ディープラーニング技術を活用したデジタル仮壇の開発。
AIを活用した仮葬関連プロジェクトや、信頼性の高いAIモデルの研究。
5年以前からAI技術に関わり、最新の技術動向を追って研究している。

セミナー開催の動機 (00:05:50) 初心者がAIを安全に使えるようにするために知識提供が必要を感じた。
AIの誤情報やリスクを正しく理解し、日常生活で活用する方法を広めたい。

パソコンとインターネットの基礎 (00:07:25)

スマホとパソコンの違い (00:07:31) スマホの普及により、パソコンの基本操作を知らない人が増えている。
スマホは便利だが、ブラウザやキーボード操作の基本を理解することが重要。
パソコンの操作を学ぶことで、AIツールの活用がよりスムーズになる。

ブラウザの基本と種類 (00:09:19) ブラウザとは、インターネットを閲覧するためのアプリケーション。
主なブラウザにはChrome、Safari、Microsoft Edgeがある。

インターネットの仕組みとドメイン (00:11:05) ドメイン名（例: yahoo.co.jp）は、IPアドレスを人間が理解しやすい形に変えたもの。
検索エンジンを活用して正確な情報を得る方法を学ぶ。

チャットGPTの基本 (00:14:21)

チャットGPTとは (00:14:29) チャットGPTは、OpenAI社が開発したAIチャットサービス。
テキスト生成や質問応答、画像生成（DALL-E）などの機能を持つ。
無料版と有料版があり、有料版ではより高度な機能が利用可能。

活用事例と注意点 (00:15:16) メモ作成、料理レシピの検索、文書作成、翻訳など多岐にわたる用途。
ハルシネーション（誤情報）のリスクがあるため、情報の信頼性を確認する必要がある。
安全に利用するための基本的なルールを守る。

チャットGPTの登録と利用方法 (00:16:13) OpenAIの公式サイト（chat.openai.com）で無料登録が可能。
GoogleやAppleのアカウントを使って簡単にログインできる。
無料版は機能が制限されているが、基本的な利用には十分。

チャットGPTのモデルと機能 (00:27:18)

モデルの種類と特徴 (00:27:24) GPT-4、GPT-4 Mini、GPT-4 μ、GPT-3などのモデルが存在。
O3モデルは高性能で、専門的なタスクに適している。
無料版ではGPT-4 Miniが利用可能。

モデルの選び方 (00:32:05) O3モデルは高級SUVに例えられる高性能モデル。
Miniモデルは軽トラックのような軽量で実用的なモデル。
利用目的に応じて適切なモデルを選択することが重要。

有料版の利点 (00:33:45) 有料版では、より高速で正確な回答が得られる。
月額20ドルで、100回までの高性能モデル利用が可能。
無料版と比べて、画像生成や高度な検索機能が充実。

新機能: キャンバスとプロジェクト (00:37:45)

キャンバス機能の概要 (00:37:54) キャンバスは、作業スペースを整理し、情報を統合するための機能。
ドキュメントやアイデアを同時に表示し、効率的に作業が進められる。
部分的な編集や詳細の追加が容易。

プロジェクト機能の活用 (00:43:41) プロジェクトは、フォルダのようにデータを整理するための機能。
会話履歴や作業内容をグループ化して管理できる。
プロジェクトを削除するとデータも消えるため、注意が必要。

キャンバスとプロジェクトの利点 (00:45:05) 作業の効率化とデータ管理が容易になる。
フォルダ機能を活用することで、複数のタスクを整理可能。
初心者でも直感的に利用できる設計。

他のAIツールとの比較 (00:47:07)

Google GeminiとClaude (00:47:14) Google Geminiは高速で長文対応が可能なAIツール。
Claudeは倫理的で優れた設計で、深い読み解き能力を持つ。
それぞれの特徴を理解し、用途に応じて使い分ける。

バーブラシティとジェンスパーク (00:48:09) バーブラシティは、ソフトバンクユーザー向けに提供される。

Microsoft Copilotの特徴 (00:49:05) ジェンスパークは、スライド作成やAIチャットに特化したツール。
Copilotは、Web版で画像生成やドキュメント作成が可能。
チャットGPTよりも高速に画像を生成できる。
無料で利用可能ため、初心者にもおすすめ。

葬儀サービスに関するトラブル調査の概要 (00:00:02)

セミナーの振り返り (00:56:06) AI活用の基本から応用までを網羅的に解説。
チャットGPTの登録方法やモデルの選び方を学んだ。

キャンバスやプロジェクト機能の利便性を理解。

AIツールを日常生活や業務に取り入れる方法を模索。

他のAIツールとの比較を通して、最適なツールを選択。

安全にAIを活用するための知識を深める。

最後のメッセージ (00:59:00) AIは日々進化しており、初心者。

葬儀業界の現状と課題 (01:01:54)

時代遅れの業界慣習 (01:01:54) 調査結果は報告書にて示された。

調査期間は2020年から2024年の5年間にわたる。

葬儀業界の現状や課題を明らかにするためのデータ収集が行われた。

報告書一部は公開されており、業界関係者にとって重要な資料となっている。

IT活用の重要性と未来への提言 (01:03:39)

AIとIT技術の導入促進 (01:03:39) 調査結果は競争データとして整理され、分析が進められた。

データの可視化やマインドマップを活用して、問題点を明確化。

競争データを基にした具体的な改善提案が含まれている。

報告書の一覧は、業界内外での議論の基礎資料として活用されている。

葬儀業界の現状と課題 (01:01:54)

デジタルツールの導入状況 (01:02:20) マインドマップ作成アプリ「マビファイ」が使用された。

複雑な情報を視覚的に整理し、理解を深めるためのツールとして活用。

初心者でも簡単に利用できる点が評価されている。

マインドマップを通じて、業界全体の課題を体系的に把握可能。

葬儀業界の現状と課題 (01:01:54)

デジタル化のメリット (01:03:44) 調査結果は依然としてアナログな手法が主流。

faxや手書きの書類が未だに必要とされる場面が多い。

デジタル化が進んでいないため、業務効率が低下している。

伝統的な慣習が根強く、変化への抵抗が見られる。

葬儀業界の現状と課題 (01:01:54)

IT企業との競争 (01:02:55) 一部ではLINEやPDFなどのデジタルツールが活用されている。

画像ファイルの送受信は可能だが、WordやExcelの利用は限定的。

デジタル化の進展が遅れているため、他業界との差が広がっている。

デジタルツールの活用が進むれば、業務効率が大幅に向かう可能性がある。

IT活用の重要性と未来への提言 (01:03:39)

デジタル化の利便性比較 (01:03:02) AIやIT技術を活用することで、業務効率が大幅に向かう。

情報収集や分析が迅速化し、顧客対応の質が向上する。

IT技術を導入しない企業は、時代に取り残される可能性が高い。

業界全体でのIT活用的重要性を認識する必要がある。

終了の挨拶とまとめ (01:04:14)

本日の内容の振り返り (01:04:14) デジタル化により、業務効率化とコスト削減が実現。

顧客満足度の向上やトラブルの減少が期待される。

情報の透明性が向上し、業界全体の信頼性が高まる。

デジタル化は、業界の未来を切り開く鍵となる。

終了の挨拶とまとめ (01:04:14)

本日の内容の振り返り (01:04:14) デジタル化を進めることで、業界全体の競争力を強化。

小規模な葬儀会社もIT技術を取り入れることで生き残りが可能。

業界全体での協力が、変革を成功させるための鍵となる。

デジタル化の成功事例を共有し、導入を促進する。

終了の挨拶とまとめ (01:04:14)

本日の内容の振り返り (01:04:14) デジタル化の進展により、葬儀業界の未来が大きく変わることが可能。

変化に対応できる企業が市場での競争力を維持。

業界全体での意識改革と教育が必要。

デジタル化を通じて、より良いサービス提供を目指すべき。

終了の挨拶とまとめ (01:04:14)

本日の内容の振り返り (01:04:14) 葬儀業界の現状と課題、デジタル化の重要性について解説。

調査結果や具体的な改善提案を共有。

IT技術の導入が業界の未来を切り開く鍵であることを強調。

本日の視聴に対する感謝の意を表明。

今後も業界の発展に向けた情報提供を続けることを約束。

視聴者の成長と成功を願うメッセージで締めくくり。